

## 序 文

調査研究部長

宗 像 元 介

新訓練法の制定に先立つ中訓審査申においては、職業訓練制度の背景になる労働経済の変化、技術革新あるいは時代の要請等が考察され、その結果、公共職業訓練施設網を中核とする職業訓練の全般的拡大が指向されている。

しかし、一面、現実に実施されている公共職業訓練の実質的内容については、必らずしもすべてが把握されているとは云いがたい。このような実態の一つとして"訓練生の素質"をあげることができる。この素質の推移は公共訓練の方法や方向を決める上ではやはり見逃し得ない指標である。

調査研究部ではこのような観点から、総高訓の訓練生の素質について徹底的な解析を試みつゝあるが、本報は昨年につゞく第2報である。この調査結果が現場の指導員諸氏あるいは制度運用の衝に当られる方々のご参考となれば吾々の衷心からの喜びとしたい。なおこの調査は更に数年続けて一層有効な結論を得るよう努める予定であることを附言する。

研究担当者

調査研究部

戸田勝也      安江節夫      古賀一夫  
木村力雄      石橋泰彦      内田悦弘  
富田康士

協力 訓練部指導科

手塚太郎      勝俣暎史  
佐々木輝雄

調査協力総高訓

新潟総合高等職業訓練校  
長野総合高等職業訓練校  
富山総合高等職業訓練校  
石川総合高等職業訓練校  
岐阜総合高等職業訓練校  
愛知総合高等職業訓練校  
高知総合高等職業訓練校  
岡山総合高等職業訓練校  
佐賀総合高等職業訓練校  
八幡総合高等職業訓練校  
神奈川総合高等職業訓練校  
訓大附属総合高等職業訓練校  
岩手総合高等職業訓練校  
茨城総合高等職業訓練校  
鳥取総合高等職業訓練校

## あ　と　が　き

総合職業訓練校に在籍する訓練生がどのような素質を有しているか、その実態を明らかにしてきた。これにより、職業訓練を受ける個人の立場から、これからの職業訓練を構築する重要な資料が蓄積できた。

本年度は15校の総高訓、1714名の訓練生の協力を得て、知能検査、職業適性検査、職業興味検査を実施し、訓練生の素質を明らかにした。また、出身中学校における総訓生の素質の位置づけを他の進路に進んだものの比較において調査したのである。

なお、今後調査研究すべきことは次のような事項である。

(1) 訓練生の職業訓練に対する期待、意識を個々の訓練生ごとに事例的に把握すること。

(2) 総高訓によつて、素質の程度がかなり異なるが、その原因をその地域の社会経済的、並びに教育的環境等の調査により明らかにすること。

(3) 知能と適性、および職業興味の理論的な関係わくを明確にし、個人の職業適性を人間の多角的な側面から把握できるように研究すべきである。そのために、訓練生個人々人について、訓練成績、職場での成果などとの関連を事例的に調査する必要があること。

最後に、ご協力いただいた各総高訓の諸先生および訓練生、雇用促進事業団本部の方々にお礼申し上げます。

発行日　　1970年3月25日

発行者　　職業訓練大学校

調査研究部長　宗　像　元　介

東京都小平市小川西町2260

TEL 0423(41)3331